

- 人口減少に伴う医療機関の共倒れが危惧される中、住民の安心のため、中核2病院の役割分担による強い連携が必要だった。
- 令和2年3月16日 名寄市病院事業と士別市病院事業が「地域医療連携推進法人」を設立する旨を公表し、令和2年9月1日に設立。令和6年2月に名寄東病院が新たに加入。
- 名寄市立総合病院に急性期医療を集約し、士別市立病院は回復期・慢性期の患者を、名寄東病院は地域で不足する外来診療や急性期の補完機能を担う機能分担により、効率的な医療提供体制を目指す。



一般病床 300床

- ・高度・急性期 252床
- ・回復期 48床 (地域包括ケア)
- ・休床 8床
(精神55床 感染症4床)

地方・地域センター病院
救命救急センター
災害拠点病院
周産期母子医療センター

2病院による
意見交換を
重ねる

地域医療連携
推進法人
を設立する
旨表明



一般病床 138床

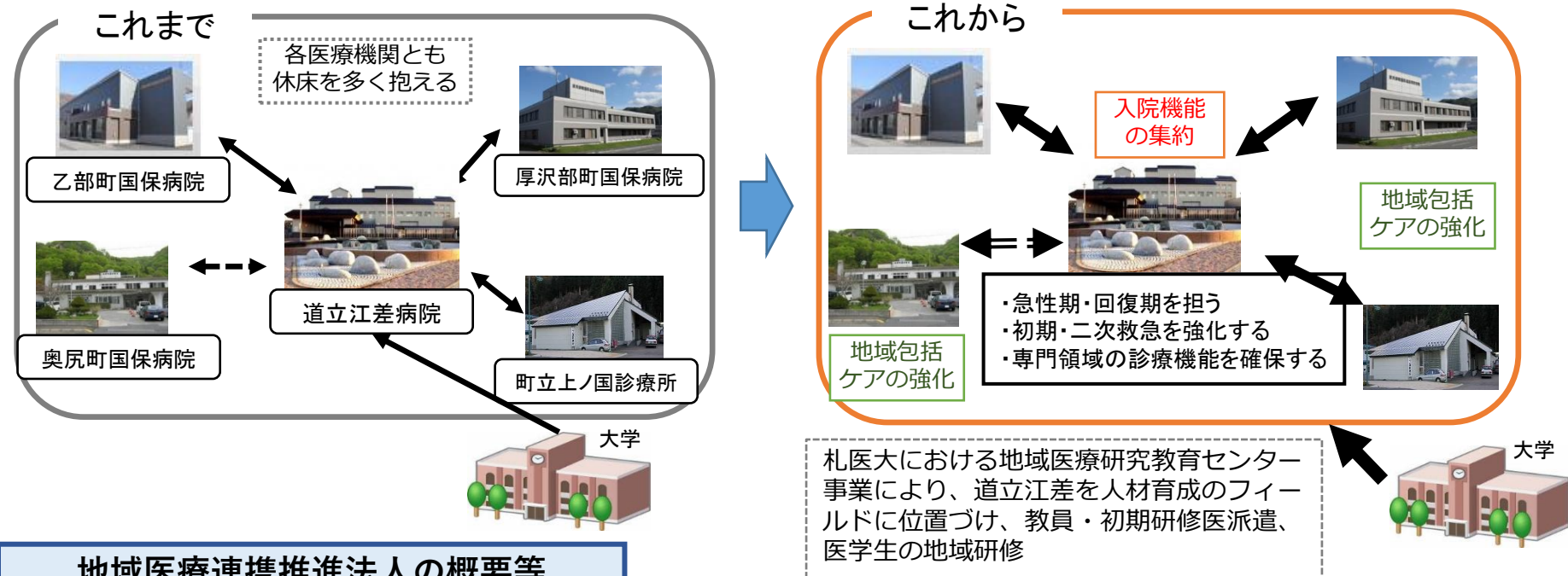
- ・急性期 55床
- ・回復期 53床
- ・慢性期 30床
(うち地域包括ケア病床27床)

救急告示病院
在宅療養支援病院

地域医療連携推進法人の概要

- 名称 : 地域医療連携推進法人「上川北部医療連携推進機構」
- 参加団体 : 名寄市 (名寄市立総合病院、名寄東病院)、士別市 (士別市立病院) ※今後拡大を検討
- 区 域 : 上川北部圏域
- 具体的な取組 : ①診療機能等の集約化・分担・強化、病床規模の適正化 (推進方針)
 - ②医療機器の共同利用
 - ③医薬材料・薬品等の共同交渉・共同購入
 - ④委託業務共同交渉
 - ⑤連携業務の効率化～ポラリスネットワーク (電子カルテ、その他システム等の将来的な連動)
 - ⑥医療介護従事者の派遣体制の整備、人材育成、人事交流
 - ⑦入院患者の在宅療養生活への円滑な移行の推進、病院間の連携強化
 - ⑧働き方改革への対応

問題意識：「今ここで、関係者が力を合わせ、将来を見据えた医療提供体制を作り上げていかなければ、人口減少が急速に進む南檜山の医療は守れない」 → R2.3月 行動方針策定



地域医療連携推進法人の概要等

- 名称：地域医療連携推進法人「南檜山メディカルネットワーク」
- 参加団体：北海道、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町、医療法人道南勤労者医療協会、医療法人雄心会、医療法人社団恵愛会
- 区域：南檜山区域
- 具体的な取組：医療機能の分担・業務連携、患者紹介・逆紹介の円滑化、医療従事者の相互交流・派遣応援、高額医療機器の共同利用、薬品・医療材料等の共同価格交渉、介護事業等の連携を推進するための事業、法人便り・地域公開講座
- 法人設立：令和2年9月1日
- 令和2年8月25日、国の重点支援区域に選定
- 病床機能については、令和5年度に法人内に病床機能検討委員会を新たに設置し、検討を進めているところ

- 圏域内の人口減少、高齢化が進行する中、後継者不足による閉院や医療従事者不足による病床の減少が続いているなど、医療機能の低下が圏域の課題となっていた。
- 限られた医療資源を効率的に活用し、医療機能の分担及び業務連携を強化・推進し、新たな医療連携体制を構築していく必要。
- 令和5年9月 地域医療連携推進法人オホーツク西紋医療ケアネットワーク設立



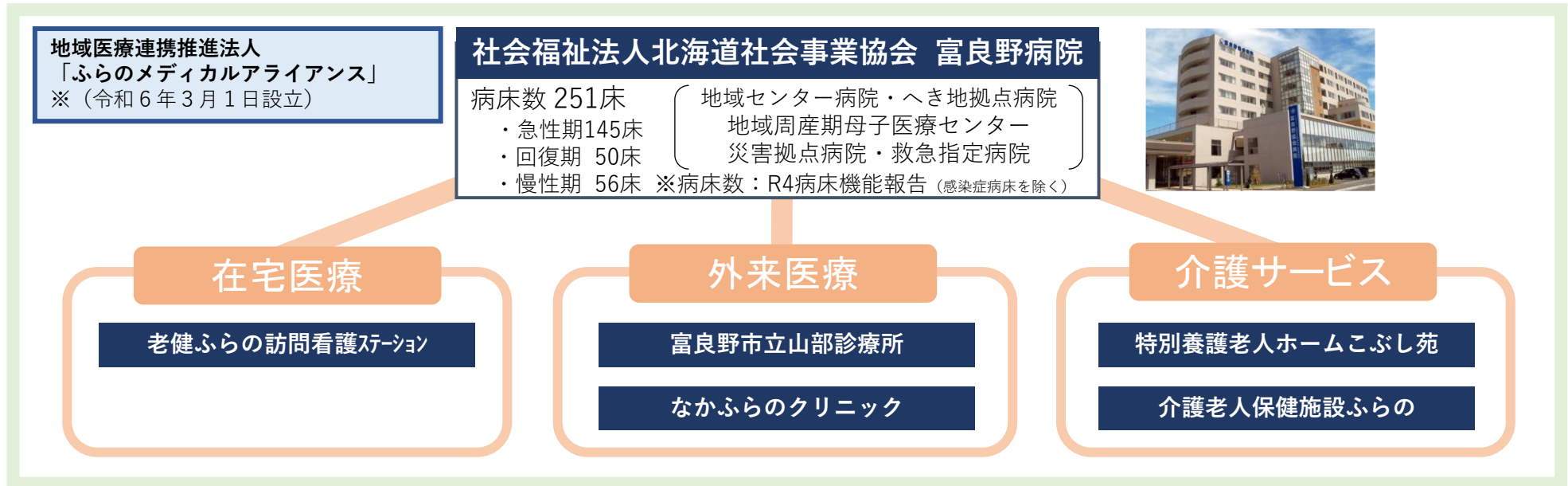
地域医療連携推進法人の概要

個人社員として参画、
 改正医療法施行後の令和6年4月以降、医療機関を開設する法人等として参画

- 名称：地域医療連携推進法人「オホーツク西紋医療ケアネットワーク」
- 参加団体：広域紋別病院企業団（広域紋別病院）、紋別市（紋別市休日夜間急病センター、市立上渚滑診療所）、興部町（興部町国民健康保険病院）、雄武町（雄武町国民健康保険病院）、滝上町（滝上町国民健康保険診療所）、西興部村（西興部厚生診療所）、医療法人みなとクリニック（紋別市）、医療法人社団雄山会山口クリニック（雄武町）、大原医院及び小林整形外科の2医療機関は、改正医療法施行後、個人社員で参画の予定
- 区域：遠紋区域
- R5主な事業計画：法人関連施設職員の院内研修会への参加、医師のクロスアポイントメント制度の検討
 医薬品・診療材料・医療機器についての購入状況の調査の実施（購入実績の調査を予定）
 遠隔医療や医療情報共有システムなどICTの利活用の検討（医療及び介護連携の導入を検討）

< 理 念 >

人口減少と高齢化が急速に進行する中においても、富良野圏域における医療機関の開設者や介護事業を行う者が一体となり、限られた医療資源を効果的かつ効率的に活用しながら、相互間の機能分担及び業務連携を進め、住民が将来にわたり住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受け続けられる体制の構築を目指す。



地域医療連携推進法人の概要等

- 参加団体 : 社会福祉法人北海道社会事業協会（富良野病院、介護老人保健施設ふらの、老健ふらの訪問看護ステーション）、富良野市（富良野市立山部診療所）、中富良野町（なかふらのクリニック、特別養護老人ホームこぶし苑）
- 区 域 : 富良野区域
- 取 組 : 医療機能の分担・業務連携、医療従事者等のスキルアップに関する共同研修、医師等医療従事者の相互交流システムの構築、富良野協会病院の医療機器の共同利用、医薬品・医薬材料等の共同購入、その他の地域医療連携推進のための業務、高齢化に対応した入退院調整、急変時の対応のための病院等と介護サービス事業者との連携強化、医療従事者の確保及び定着の支援
- 具体的な成果 : 共同研修の実施、看護師の派遣（なかふらのクリニック→富良野協会病院）、患者情報共有に向けた説明会の開催
- 今後について : 更なる事業展開のため、参加機関の拡大や地域の機運醸成を進める

公立芽室病院の取組

D to P with N を実践し、医師や患者の負担を軽減

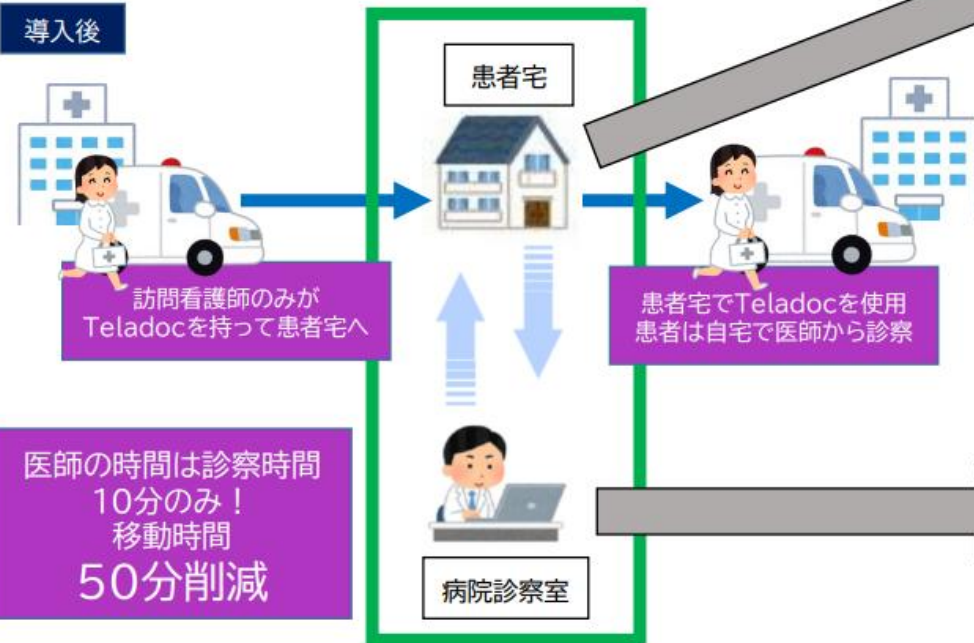
訪問診療→オンライン診療へ

導入前



移動時間50分
+診察時間10分
=合計60分

導入後

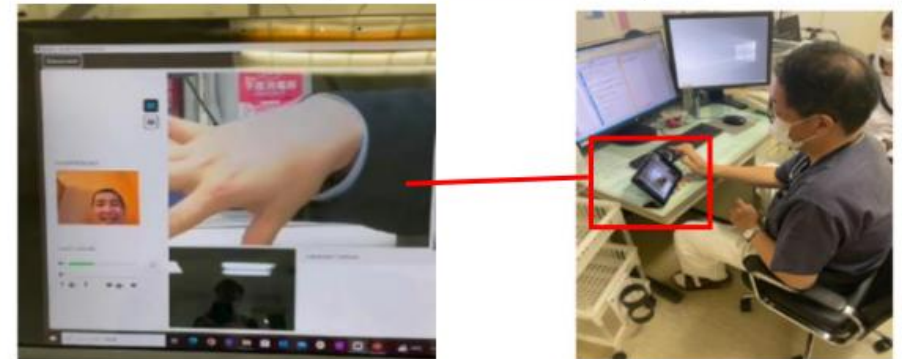


患者宅



訪問看護師が患者宅のリビングでTeladoc Healthを操作。患者は自宅から診察を受ける。

病院診察室



医師は診察室で電子カルテを見ながら、パソコンで操作。一般外来診療の合間でオンライン診療実施。